

めぐみイエス・キリスト教会

2018年8月12日(日)第二主日礼拝
週報「通算第418号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分(8月より)
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年8月12日(第二主日)

第一礼拝 午前10時～11時

(一)司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

第二礼拝 午後6時～6時45分

(二)司会 鈴木竜実牧師 奏楽 鈴木竜実牧師

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【交読文】 No.9 詩篇第27篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌332「主は真のぶどうの木」 p. 528

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書15章6節～8節(新約p. 193)

【祈 禱】

【説 教】 《とどまることと、とどまらないこととは?》

【聖餐式】 (第一礼拝のみ)

【賛美Ⅳ】 新聖歌291「神の国と神の義」 p. 465

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1 「私にとどまっていなければ」とは?

※ローマ人への手紙11章17節～22節「オリーブの木と枝」(新約p.281下段)

※ヘブル人への手紙6章4節～6節「一度光を受けてから」(新約p.394上段)

6:4 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、
6:5 神のすばらしいみ言葉と、後にやがて来る世の力とを味わったうえで、
6:6 しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。

●ポイント2 「私にとどまり、私の言葉がとどまるなら」とは？

※第 I ヨハネ2章24節「初めから聞いたこと」 (新約p.428上段)

2:24 あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。

●ポイント3 「求めなさい」そして「多くの実を結ぶ」こととは？

※第 I ヨハネ3章21節～22節「もし自分の心に」 (新約p.429下段)

3:21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、

3:22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行なっているからです。

※マタイの福音書5章14節～16節「山上の垂訓の教えから」(新約p.6上段)

5:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。

5:15 また、あかりをつけて、それを枘の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

※エペソ人への手紙2章10節「ぶどうの実とオリーブの実」(新約p.339下段)

2:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。

◎先週のメッセージの概要【私にとどまりなさい】

《旧約聖書には、神様が選民であるユダヤ人を、ぶどう畑にたとえたことが、数多く書かれています。それによりますと、農夫である神様は、良いぶどうの木を植えて、甘いぶどうがなるのを楽しみに待ち望んだのに、所が酸いぶどうが出来てしまったと、イザヤ書・エレミヤ書には書き記されているのです。

パウロは、私たちとイエス様の関係をオリーブの木と枝にたとえています。『もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分を共に受けているのだとしたら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。』

私たちは、イエス様と言うぶどうの木に接ぎ木された枝なのです。パウロが言うように、イエス様と言う木から養分をいただいて生かされているのです。

イエス様は、「私にとどまりなさい」と言われました。このことから、私たちには、「とどまる」と、「とどまらない」ことの選択肢が与えられていることが分かります。さて、それでは「主イエス様にとどまる」と言うことは、具体的にはどのようなことなのでしょう。

それは黙示録においてイエス様がヨハネにこのように語っています。『見よ。私は、戸の外に立ってたたき。誰でも、私の声を聞いて戸をあけるなら、私は、彼の所にはいって、彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。』

食事は、ひとりよりも数人でした方が楽しいに決まっています。なぜならそこには人格と人格との交わりがあるからです。「私にとどまりなさい」と言うことは、イエス様との人格との交わりを続けることなのです。そして食事は一回きりではありません。毎日三食取るように、イエス様との食事も同じなのです。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。』と、言われた通りなのです。聖書のみ言葉を読み、み言葉にとどまる時に、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制と言う御霊の実が実り始めて行くのです。》

◎お知らせ

1. 次回第3主日礼拝は、8月19日(日)午前10時からと午後6時からです。祈禱会は8月15日(水)午後6時15分です。平山輝明宣教師がご用をなされます。
2. 鈴木師は、8月16日(木)TPC昼礼拝(植草榮一師)で奏楽を担当します。